

平成24年度 茨城県立海洋高等学校自己評価表

【別紙様式2】

目指す学校像	教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。					
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
	<p>学習指導は、生徒の自己教育力の育成と体験学習を重視し学習意欲の向上を図る。学力に関しては、その意欲を育て、きめ細かな個別指導を行い、その向上を図る。</p> <p>特別活動は、生徒が自主的に活動するような校内環境（行事等）を推進する。また、部・同好会活動の活性化を目指し、生徒が生き生きとした学校生活を送れるようにする。</p> <p>生徒指導は、問題行動を起こす生徒・退学者を減らすため基本的生活習慣の育成に努める。予防的な生徒指導を推進することで規範意識を向上させる。</p> <p>進路指導は、多くの生徒が自ら希望する進路を選択できるよう、その情報を提供する。全生徒が主体的に進路選択を図れるようにする。</p> <p>全校的課題としては、地域における本校教育内容の理解や認知をより一層広げる必要がある。</p>	人間力を育成する学校をめざす。	①基本的な生活習慣育成に努め、きめ細かな学習指導や進路指導の実施を推進し、原級留置者や退学者を減少させるとともに、生徒の幅広い進路選択を可能にする。	A		
		予防的な生徒指導を実現する。	②道徳教育活動を推進し、ボランティア活動やHR単位での活動を通して明るく節度ある生活態度を身に付けさせる。また校内巡視などによる積極的な声かけ活動を実施することにより、特別指導件数を減少させる。	B		
		地域との連携を図り、海洋教育の大切さを積極的にPRする。	③本校の特色を活かした企業実習を実施し、近隣小中学校との連携や水産試験場・県水族館アクアワールド大洗との連携、県内各漁業関係者との連携など、地域との連携及びキャリア教育を積極的に進める。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題		
教科指導	個々の生徒の実態に応じた授業展開と、きめ細かな個別指導を行い教科指導を実施する。	評価規準に基づく生徒の実態に沿った評価の実践 学力向上を図るための個別指導方法の研究や実践 進路に応じた課外学習の実施	① A ① B ①③ A	A	・基礎学力向上を図るための具体的方策の計画 ・体験的学習の改善	
教科	国語	生徒の実態に応じて授業を展開し、基礎学力の向上を図り、将来に生きる能力を育成できるよう指導する	副教材に漢字テキストを用い、読み書きの能力を育成する 作文やスピーチの指導により、伝え合う力を高める 様々な文章を読み、論理的思考や想像力を高める 進路を意識した総合的な国語力を養う	① A ① B ① B ① B	B	模範文例の研究と作文練習帳を活用して文章を書くことに慣れさせる。
	地理歴史	個々の生徒の実態に応じた授業をしながら郷土に対する理解を深め郷土を尊重する態度を養う	ITを取り入れきめ細かい指導の実施 個々の生徒の実態に応じた授業をしながら社会人として必要な資質を養う 生徒の発言する機会や考えさせる機会を多くし生徒の持つ能力を総合的に引出す	① A ① B ① B	B	具体的方策をより徹底して実施する。
	公民	個々の生徒の実態に応じた授業をしながら社会人として必要な資質を養う	時事的な内容を多く取り入れ進路を意識させる 個別指導方法の研究や実践により理解の定着を図る 生徒の発言する機会や考えさせる機会を多くし生徒の持つ能力を総合的に引出す	① A ① B ① B	B	具体的方策をより徹底して実施する。
	数学	生徒の基礎学力の向上を図る 生徒全員に達成感を与える授業を展開する	基礎計算能力を高める 小テストを行い分析する 「何が必要か」を正確に把握し目標を設定する 教材の選定をこれまで以上に検討を重ねる	① B ① C ① A ① B	B	四則演算を繰り返して基礎計算能力を高める。
	理科	生徒の学力に応じた授業内容を考える	小テストなどを導入し、生徒の理解度を確認しながら授業を進める 生徒がわかる授業の工夫をし、生徒に成就感を持たせるようにする	① A ① B	B	物質質量（モル）の計算ができること

教	保健体育	運動の楽しさや喜びを味わせ、生涯を通じて継続的に運動できる資質や能力を育てる	生涯スポーツの獲得を意識した選択種目を設定して生徒のニーズに応える ① B	A	・集団行動を多く取り入れたい。 ・体力向上に向けての補助トレーニングの実施
		各種目のルールや特性を活かした中で公正・協力・責任などの態度を育てる	能力別・チーム力均等、グループ編成を工夫し、楽しく活動できるようにする ① A スポーツランキングを取り入れ、楽しみながら基礎体力の向上を目指す ③ B 能力に応じた簡易ルールを工夫し、誰でも楽しめるようにする ① A それぞれの役割分担を明確にして責任ある行動を促す ② A 施設や用具の安全で適切な使用方法を指導徹底する ② A		
科	芸術	生涯を通じた書道の楽しさや奥深さを知ってもらう	個々の生徒の実態に応じた書道を毛筆にて指導する ① A 丁寧な筆字を目指したペン習字をきめ細やかに指導する ① C	B	製作意欲を持たせるよう、教材の開発に力を注ぐ。
	外国語	生徒の実態に応じた授業の展開と、個人レベルまで学習をサポートする教科指導を進める	生徒の習熟度を鑑み、定期テスト対策や進路など、生徒のニーズに合わせた個別指導（1：添削指導 2：チューター指導）を実施していく ① B	B	英語の授業を英語で行う取組について、教科内で共同指導体制を実施したい。
			生徒の習熟度に合わせた授業を展開するために、生徒の習熟度と3年間の教育課程を見越して独自のワーク教材を系統立てて作成する ① B 実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、適宜にクラスルーム・イングリッシュを活用した授業を実践していく ① B		
	家庭	生徒の実態に応じた授業展開を実習中心に実施する	主に調理実習を通じて、生徒の実態と興味関心を鑑みた授業展開を実施する ① B	B	実習を通し、個別指導の充実を図る。
水産	生徒の興味関心を喚起する専門教育を実施する 生徒の安全と事故の無い実験・実習を実施する 生徒の適性と将来性を目指した専門教育を実施する	実験・実習等体験的学習を実施するとともに、適切な教材を通して学習意欲を喚起する ① B 実験・実習については計画的・系統的な実施計画をたて、個々の生徒に応じたきめ細かい指導を実施する ① B 専門教育に関わる資格取得を奨励・推進し、生徒の適性と将来性に通じた専門的かつ総合的な学習指導を地域との連携を通して実施する ③ A	B	特徴ある実験・実習の更なる展開を行い、担い手としての人材育成に向けて生徒の職業観を育てる。	
教 務	学力向上を図るための具体的指導計画の立案と実施	評価規準に基づく生徒の実態に沿った評価方法の研究 ① A 学力向上を図るための教育課程の研究 ① A 進路に応じた課外学習の実施 ①③ B	A	・校内組織の円滑な進行 ・教育課程の研究 ・生徒募集への取組 ・学習環境の改善 ・授業の充実 ・生徒の意識変革と達成感を与える 指導方法の研究	
	自己教育力育成のための基礎づくりを目指す教育の推進	学校間連携（那珂湊高校）の実施 ③ C 資格取得の奨励 ① A 「課題研究」における課題解決型学習の実施 ① A			
	キャリア教育の推進	体験学習及び企業実習等の効果的な計画・実施 ①③ A			
特別活動	生徒会活動の自主的な運営	生徒による学校行事の主な企画、運営 ② A 生徒による校外活動 ① B	A	・生徒会のボランティア活動の活性化	
	部活動の振興	部活動の活動率の向上 ① A 部活動の指導者の育成及び講習会への参加 ① B			

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	挨拶・言葉遣いの指導	①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続指導の徹底を図る。 ・全教職員の共通理解を図り、さらに、学校としての協力体制・指導体制を築く。 	
		欠席・遅刻・早退の減少	①	B			
		交通・乗車マナーアップ指導	①	A			
		服装・頭髪の定期的指導	①	A			
		喫煙防止・薬物乱用防止意識の高揚	②	B			
	充実した学校生活への取り組み	規範意識の向上	①②	B			
		全校・学年集会の充実	①②	A			
		問題行動をさせない事前の指導	①②	A			
	道徳教育の推進	問題行動の早期発見・早期対応・早期解決	①②	A			
		学校生活の意義・目的意識の定着	②	A			
研修会の充実		①②	B				
生徒指導相談員の活用		①②	B				
進路指導	主体的な進路選択の育成	進路適性検査及び進路ガイダンスの実施	①	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 各企業やハローワーク等の関係機関及び主要進学先との関係を一層深め、進路指導のさらなる充実を図る。 	
		地元協力企業による生徒企業実習の実施	③	A			
		管内求人企業の新規開拓及び情報提供（ハローワークとの連携）	③	A			
	進路相談の充実	進路未決定者を出さないための進路相談の充実	②	B			
		相談及び指導体制の充実	①	B			
進学指導の充実	適性に応じた進学指導の徹底	②	A				
渉外	PTA活動の活性化	入試情報の提供などのきめ細かな指導	①	A	B	各種委員会活動への参加数増加	
		各種委員の自覚を促すとともに各種委員会の活性化	③	B			
図書	蔵書の整理	広報紙及び学校通信による保護者、地域住民への広報活動	③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教員ともに閲覧・活用しやすいよう工夫していきたい。 	
		生徒及び職員への図書室開館	蔵書のデータベース入力	①			B
			内容が古くなった図書の選別及び廃棄作業	①			C
	有効的な購入図書の選定		①	A			
	昼休みの開館		①	A			
図書委員会の活性化	放課後、定期試験中の放課後の開館	①	A				
	長期休業中の計画的開館	①	B				
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実	生徒図書委員への適切な指示、自主性の育成	①	C	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の推進 ・災害等における安全教育の充実 ・地域関係機関との連携の強化 ・スクールカウンセラーの有効活用 	
		教育相談の体制を確立する	健康診断と効果的な事後指導の実施	①			A
			各種学校行事における保健管理・指導の徹底	①			B
			保健だよりを通して、必要な健康情報の提供	①			A
			学校環境衛生検査の実施	①			A
	生徒保健委員会の活性化		①	B			
	教育相談の体制を確立する	地域の関係機関・団体との効果的な連携	③	A			
		教育相談の知識・技術の向上	①	A			
		クラス担任との連携	①	A			
		教職員の研修を実施	①	A			

情報	情報機器，ネットワークの維持管理	情報機器の維持管理 ネットワークの管理 メールアドレスの管理	② ② ③	B A A	A	各項目の迅速な処理に努めたい。
第1学年	個に応じた学習指導を充実し，基礎的な内容を身につけさせる。望ましい集団生活を通じて，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。家庭との連携を密にする。	授業内容の精選を図り，生徒一人一人に即した授業を展開し，基礎学力の習得を目指す。 生徒指導部との連携及びLHRや学年集会を通して基本的な生活習慣に対する意識の向上を図る。 1学年全家庭を対象に家庭訪問を実施し家庭との連携を密にする。	① ①② ③	B B B	B	高校生としての意識を早めにつけさせたい。(校則，マナー，基本的な生活習慣)
第2学年	基本的な生活習慣を確立させ，社会に出るために必要な資質を身につける。 基礎学力の定着を図るとともに将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する。 学校行事等への積極的な参加を促進する。	時間厳守やあいさつの敢行，言葉づかい・頭髪・服装について学年の共通認識のもとに指導を行う。 授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる。 専門教科等を通して将来の進路に必要な知識・技術を身につけさせる。 企業実習を通して将来の進路への意欲を向上させる。 修学旅行の充実を図るため，年間を通して東日本大震災の被災地の状況や防災対策について理解させる。 参加することの大切さや充実感を理解させ，体育祭やクラスマッチへ積極的に参加させる。	② ① ① ③ ② ②	A B B A A A	A	・頭髪指導に関しては，こまめな継続指導が必要 ・企業実習に関しては，科の特色に近いところの企業に偏っている。もっと広範囲な企業実習に分散した方が，就職指導の際，選択肢が広がる。 ・来年は修学旅行先が変わる。いろいろな機会を利用して，災害のない平和な生活の大切さを理解する。
第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに，目標の実現に向けた指導の充実を図る。 社会人として必要な生活態度やマナーを身につけさせる。 最上級生としての自覚を持たせ，率先して学校行事や部活動に参加させる。	進路希望調査や二者面談・三者面談を実施する。また，各部署と協力し，基礎学力の向上や面接対応能力の向上を目指す。 時間の厳守や挨拶の励行，言葉遣い，頭髪・服装について，社会人となる意識を持たせながら指導を行う。 特別活動やホームルーム活動を通して，最上級生としての自覚を持たせ，学校行事等に積極的に参加させる。	①③ ① ②	B A A	A	・できるだけ早い時期に進路目標を明確にさせ，それぞれの進路にあった計画的な学習及び面接等の指導を実施する。 ・HR活動等を通して，協調性を高めたり，自分の考えをまとめて発言したりすることにより，社会人として必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。

※評価基準 A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない